

御 挨 拶



日本時間4月2日の朝、南米チリ北部沖でマグニチュード8.2を記録する大地震が発生しました。日本には被害が及びませんでした。こちらから見て地球の裏側で起きた地震にもかかわらず津波が届きました。自然の力の恐ろしさを、改めて実感する出来事でした。

しばしば人間の予想を超える規模で到来する自然災害に、万全の備えを講じておくことは極めて重要です。とりわけ京都では、147万人の市民の皆様はもちろん、国内外からお越しの年間5,000万人ものお客様の安心安全もしっかりと守らなければなりません。

奥深い京都の魅力をじっくりと御堪能いただくための最大の“おもてなし”は、安心安全の確保。その思いの下、本市では観光客の方までを視野に入れた先進的な帰宅困難者対策に取り組み、昨年度には京都駅周辺地域等の鉄道事業者、宿泊施設、寺院などの皆様と対策協定を締結しました。鉄道の主要駅で幅広い関係者の方々と行政とが力を合わせる、全国初の事例です。

加えて、昨年9月に市内各地に甚大な被害をもたらした台風18号の経験を踏まえ、橋りょうの耐震化や緊急輸送道路の防災対策などにも入念に取り組んでいます。

また、台風の際に一人の犠牲者も出なかったのは、地元消防団や水防団、自治会、自主防災会、社会福祉協議会など多くの方々が、懸命に防災・減災に取り組んでくださったからこそ。京都は「自分たちのまちは自分たちで守る」という、市民の皆様の貴いお志と行動によって守られているとの思いを強くしています。

今後も市民の皆様と知恵と力を合わせて、災害に強く、誰もが安心して住み続けられる、「安心都市・京都」を築くために全力を尽くしてまいります。引き続き皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

京都市長 門川 大作

御 挨 拶



昨年9月の台風18号による豪雨災害では、全国初の大雨特別警報が発表され、市内の約27万人に避難指示が出される中、各地で浸水被害が広範囲に発生するなど、本市に大きな被害をもたらしました。

そのような中でも、一人の犠牲者も出すことなく、尊い「いのち」を守りきることができたのは、消防職員・消防団員の懸命な活動と、自主防災会をはじめとする各地域の皆様が、日頃の訓練や取組の成果を十二分に発揮されたからこそです。私はこのことを大変誇りに思うとともに、この災害で得た貴重な教訓を今後発生が危惧される南海トラフでの巨大地震や直下型地震などの大規模な災害への対応を強化する取組にいかし、皆様と一致協力して災害に強い「安心都市・京都」を創ってまいる決意を新たにしております。

一方、他都市においては、不特定多数の方が利用する宿泊施設や、一人で避難することが困難な方が利用する社会福祉施設、さらには、福知山花火大会において、多くの死傷者を伴う火災が発生しております。これらの災害を受けて、予防行政は大きな転換期を迎えており、露店等の安全確保に関する取組の推進や、ホテル・旅館等の新たな防火基準適合表示制度を導入するなど、建物等の防火安全対策にしっかりと取り組んでまいります。

また、昨年初めて8万件を突破した増え続ける救急需要への対応としては、救急隊の増隊や、季節や時間帯により救急事故が頻発すると予想される場合には、臨時に救急隊を増隊するなど、柔軟に対応していくこととしています。

今後も、時代に適応した確固たる消防・防災体制を構築し、いかなる災害が起きようとも、市民の皆様の安全を確保し、安心を実感していただけるよう「力強い消防」をより一層推進するとともに、「地域密着型の消防」として地域の皆様と共に「安心都市・京都」の実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、更なる御支援、御協力をお願い申し上げます。

京都市消防局長 杉本 栄一